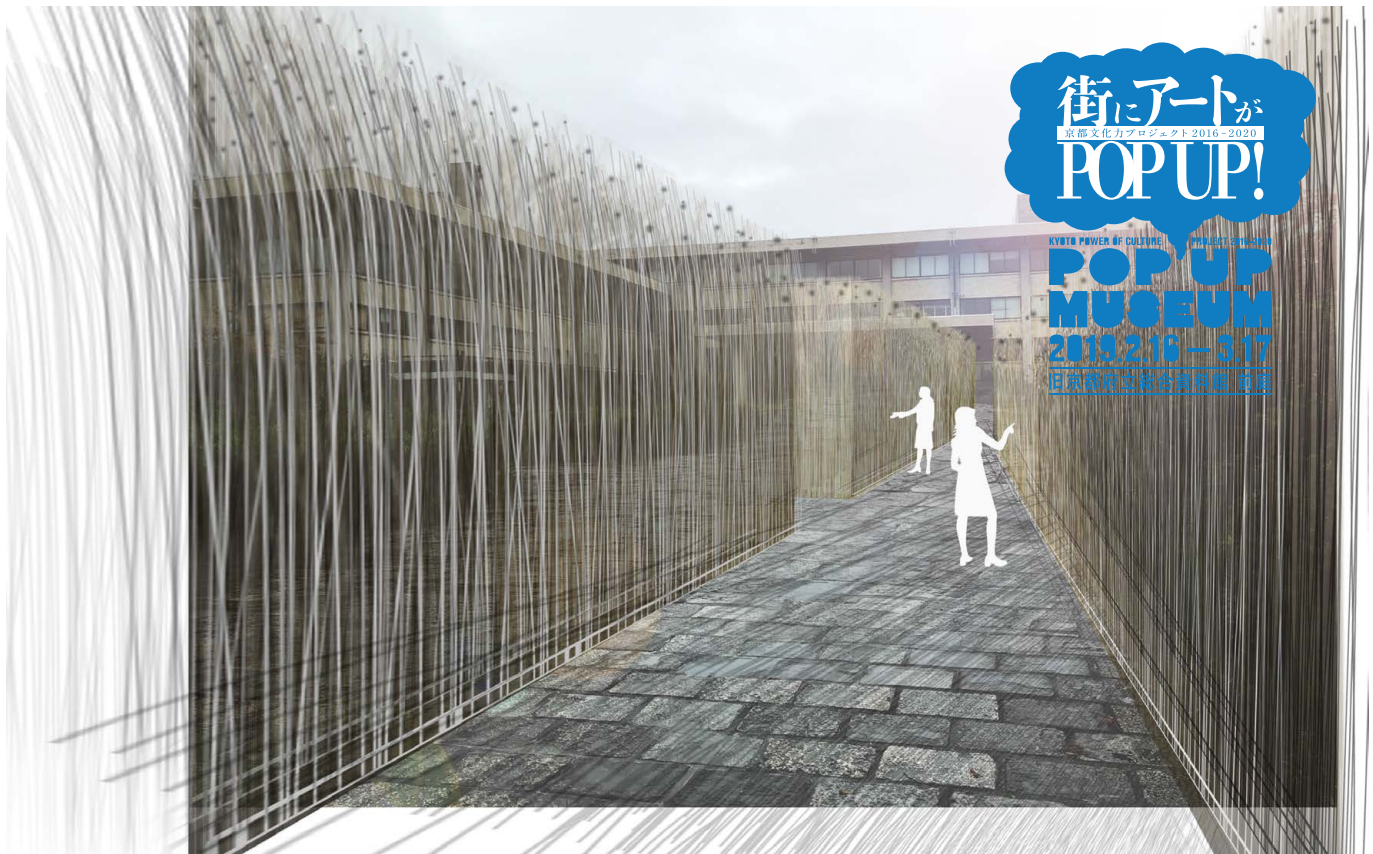




京都文化カプロジェクト 2016-2020
プレスリリース vol. 2

1 大賞 500 万の結果発表！ 風を視覚化したインスタレーションが北山で大規模開催 「野外インスタレーション公募展」

大賞は、ロンドンや奈良など国内外で活躍する
フィリピン出身の建築家ユージン・ソレールに決定！

2 同時開催：Yotta「ヨタの鬼セレブレーション展」

見慣れたものを巨大化し空間の中に突如出現させるほか、焼き芋やポン菓子などを作り振る舞う
装置や行為をユニークな視点でプロデュースすることで、空間そのものを作品に昇華させる
アーティストユニット Yotta（ヨタ）が大胆に作品を展示します！

3 関連シンポジウム「都市空間における祝祭と文化」

第一線で活躍する京都にゆかりのある美術関係者やアーティストが、彼ら独自の視点から見た
京都の可能性について語ります。

4 プレ・イベント「おも茶会」

京都を拠点に国内外で活躍する金氏徹平ほか若手アーティストたちが
茶会の概念を軽やかに解体します。

1. 大賞 500 万の結果発表！ 風を視覚化したインスタレーションが北山で大規模開催 「野外インスタレーション公募展」



2018 年 6 月から 9 月まで、都市における空間を大胆かつ想像力豊かに活用し、自由な発想で体験できるインスタレーションを募集しました。日本を含め 14 カ国から 111 件の応募があり、その中から、ユージン・ソレール氏の「Kyoto Urban Wind Installation」を大賞に選出しました。大賞に輝いたユージン氏にはプラン実現のための制作補助費 500 万円が授与され、本プランは京都市内で 2 月 16 日から一般公開（無料）します。

会 期 / 2019 年 2 月 16 日（土）～ 3 月 17 日（日）10 時～ 17 時

会 場 / 旧京都府立総合資料館 前庭 （〒 606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1 - 4）

※入場無料・会期中無休

※会期中に、マルシェやトーク等、さまざまなイベントを実施します。詳細は WEB サイトでご確認ください。

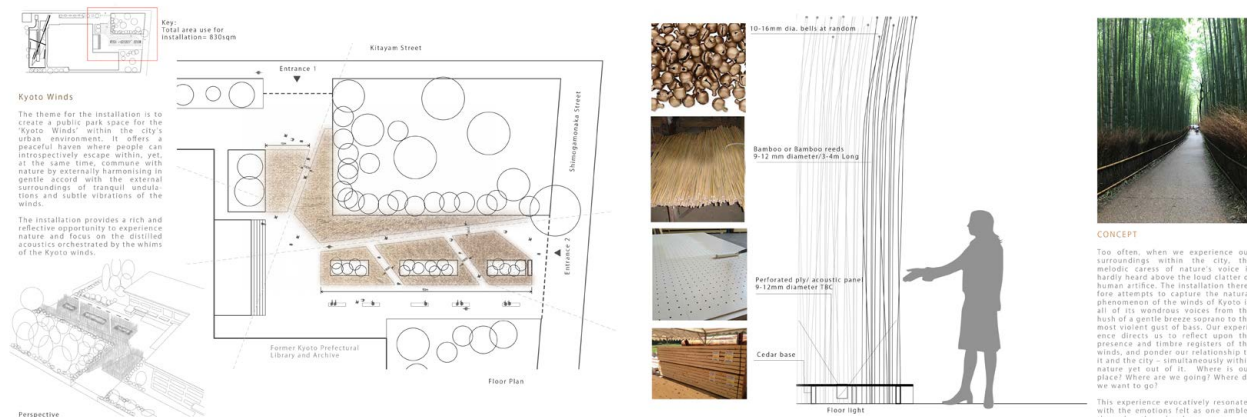
■大賞受賞者

ユージン・ソレール Eugene Soler

建築家。1977 年、フィリピン、マニラに生まれる。オーストラリア、パプアニューギニア、スウェーデンで教育を受ける。2003 年、ニューカッスル大学（オーストラリア）建築学部を最優秀の成績で卒業。2005 年 隈研吾建築都市設計事務所、坂茂建築設計にてインターンシップを経験。2010 年、ロンドンで建築家として働く傍ら、AA スクール（ロンドン）空間パフォーマンス・デザインコースを卒業。その後、オーストラリア、ロンドン、日本に拠点を置きながら、世界各地で活動进行。主な受賞歴として、第 44 回セントラル硝子国際建築設計競技最優秀賞（審査員：隈研吾、伊東豊雄 他）。2018 年には、奈良で開催された「ならまち遊歩」にて、インスタレーション作品「ならまちプロジェクション」を発表。現在は奈良市在住。

■大賞プラン

Kyoto Urban Wind Installation



■審査員コメント

安藤忠雄（建築家）

全体的に、意欲的で挑戦的な作品が数多く見られた。なかでも、わずかな風の動きで繊細な動きを見せ、音を聞かせるユージン・ソレール氏によるインスタレーションのアイデアが目をつけた。風で動く彫刻は他の案にも見られたが、嵐山の竹林にインスピレーションを得たというこの案は、鑑賞者の五感全てに訴えようとする意欲が随所に感じられた。京都の都市環境の中に、その地に相応しい自然の素材で、動きや音に抽象化された自然環境（提案者は「自然の声」と称している）を再現しようという試みは、京都文化力プロジェクトの主旨にも相応しいものと考えた。



片岡真実（森美術館副館長兼チーフ・キュレーター、京都造形芸術大学教授）

京都の文化力を象徴するものとして、日本の伝統文化や京都の自然観を特定の屋外空間でどのように表象するかという課題に挑戦した提案が多く見られた。大賞に選ばれたユージン・ソレール氏の提案はコンセプトとその具体的な視覚化、想定される観客の体験が美しく均衡したもので、嵐山の自然環境が凝縮された風や音など、五感に訴える要素も評価した。その他、都市生活と祝祭性を融合したブノワ・モーブリー氏のスピーカーによる彫刻、諸行無常と永遠性を表現した大松俊紀氏の天に昇る階段、既存の建物とダイナミックに関わる井口雄介氏の幾何形体の連続による円環も、コンセプトの本質が巧みに形体化・視覚化され、作品そのものに強度と存在感のある優れた提案だった。



建畠 哲（京都芸術センター館長、多摩美術大学学長）

京都文化力プロジェクトの今回の野外インスタレーションのコンペは、この古都ならではの環境が現代アーティストの挑戦意欲を掻き立てたのであろう、他府県のみならず海外からの応募も多かった。大賞に選ばれたユージン・ソレール氏のプランは、上に小さな鈴をつけた細い葦を密集させた大規模なインスタレーションで、無数の鈴が微風に揺れながら“ホワイト・ノイズ”を奏でるという、繊細にして不思議なエレガンスを醸し出す体験空間が出現するはずである。オーストラリアから移住し奈良に身を置くアーティストならではの発想というべきか。他にも祝祭性やモニュメントとしての造形性、建築的なユニークな構造など、注目される提案が幾つも見られた収穫の多いコンペであった。



■入選プラン展示

公募では、大賞の他、以下3点が入選に選ばれました。これらのプランを2月16日（土）シンポジウムの会場にてご紹介します。

- ・ブノワ・モーブリー（Benoit Maubrey）／Audio Gruppe『Speaker Sculpture』
- ・大松俊紀／大松俊紀アトリエ『永遠～はるのよの ゆめのうきはし とだえて みねに わかる よこぐものそら～』
- ・井口雄介『E-SCAPE』

■サポートスタッフ募集

一緒にユージン・ソレールさんの「Kyoto Urban Wind Installation」を完成させませんか？活動をお手伝いくださる方を募集します。

主な活動期間：2019年2月1日～3月30日

主な活動内容：作品制作の補助、イベント時の受付・案内等

※活動に伴う報酬・交通費の支払いはありません。 ※ボランティア保険に加入します。

【アーティスト・トーク&サポートスタッフ説明会】

ユージン・ソレールさんのこれまでの活動や大賞受賞作についてお話しいただいた後、

サポートスタッフの活動について説明します。登録は任意ですので、興味のある方はお気軽にご参加ください。

日時：2018年12月9日（日）14時～15時30分

会場：京都芸術センター ミーティングルーム2（〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2）

参加申込・お問い合わせ：京都芸術センター

■スタンプラリー開催！

会期中に、野外インスタレーション公募展とヨタ展の2ヵ所を巡り、スタンプを集めた方には、素敵なプレゼントが当たる抽選券を差し上げます。

2. 同時開催：Yotta「ヨタの鬼セレブレーション展」



見慣れたものを巨大化し空間の中に突如出現させるほか、焼き芋やボン菓子などを作り振る舞う装置や行為をユニークな視点でプロデュースすることで、空間そのものを作品に昇華させるアートユニット Yotta（ヨタ）が大胆に作品を展示します！日常の中に驚きと楽しさをもたらし、セカイの形を捉え直すきっかけを与えてくれる Yotta の作品は、見慣れた風景を新しいものに変えてくれるでしょう。

会 期 / 2019 年 2 月 16 日（土）～3 月 17 日（日）10 時～17 時

会 場 / ロームシアター京都 ローム・スクエア、岡崎公園（〒606-8342 京都府京都市左京区岡崎最勝寺町13）

※入場無料・会期中無休 ※会期中のイベント情報は WEB サイトにて告知します。

※会期中 2 月 25 日（月）から 27 日（水）は展示替えのため「花子」はご覧いただけません。ご了承ください。

■アーティスト

ヨタ (Yotta)

木崎公隆・山脇弘道からなる現代アートのユニット。2010 年結成。ジャンルや枠組み、ルールや不文律など、あらゆる価値観の境界線を発表の場としており、それらを融解させるような作品制作を行っている。現在は、自分達のアイデンティティから世界のカタチを捉え直す作品シリーズを制作中。2015 年に「金時」で第 18 回岡本太郎現代芸術賞 岡本太郎賞受賞ほか、六本木アートナイト 2010, 2012、おおさかカンヴァス 2011, 2012, 2016、Reborn-Art Festival 2017 など参加多数。その他、のせでんアートライン 2017 のプロデュース、小学校でのワークショッププログラムの実施など、幅広く活動。



「青空カラオケ」©Reborn-Art Festival 2017

■関連ワークショップ「ヨタとつくろうカラオケ背景映像！」

日時：2019 年 1 月 26 日（土）、2 月 2 日（土）13 時～16 時

会場：京都芸術センター

対象：小学生以上 参加費無料・事前申込制（先着順）

定員：12 名

持ち物：デジタルカメラあるいはスマートフォン ※お持ちでない方には貸し出すことも可能ですので、その旨お知らせください

参加申込・お問い合わせ：京都芸術センター

3. 関連シンポジウム「都市空間における祝祭と文化」

悠久の歴史を持ち、観光都市および学生のまち、国際都市として生きた様々なポテンシャルを持つまち京都。文化庁の京都移転をはじめ、京都各地で立ち上がる大小様々な動きを踏まえ、第一線で活躍する京都にゆかりのある美術関係者やアーティストが、彼ら独自の視点から見た京都の可能性について語ります。また、冒頭には野外インスタレーション公募展の表彰式も行います。

都市空間における祝祭と文化

日時：2019年2月16日（土）14時～16時

会場：京都府立京都学・歴史館

（〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-29）

登壇者：青木 淳（建築家）

片岡真実（森美術館副館長兼チーフ・キュレーター、京都造形芸術大学教授）

名和晃平（彫刻家、SANDWICH Inc. 主宰、京都造形芸術大学教授）

モデレーター：建畠 哲（京都芸術センター館長、多摩美術大学学長）

定員：400名

料金：無料・事前申込制（応募多数の場合は抽選）

参加申込：お問い合わせ：京都いつでもコール

電話 075-661-3755（お掛け間違いには十分ご注意ください） F AX 075-661-5855

年中無休 午前8時～午後9時

申込期間 2018年12月5日～1月20日

※1月21日以降で、定員に余裕がある場合は京都芸術センターで受け付けます。

詳細はWEBサイトをご確認ください。

■登壇者

青木 淳

片岡真実

1965年愛知県生まれ。森美術館副館長兼チーフ・キュレーター、京都造形芸術大学教授。（株）ニッセイ基礎研究所にて文化政策・都市開発と芸術文化事業関連の調査研究を経て、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーター（1997～2002年）。2003年より森美術館。2007～09年はヘイワード・ギャラリー（ロンドン）国際キュレーター兼務。第9回光州ビエンナーレ（2012年）共同芸術監督、第21回シドニー・ビエンナーレ（2018年）芸術監督。CIMAM（国際美術館会議）理事（2014年～）、小田原文化財団理事（2009年～）。京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授（2016年～）。ニューヨーク近代美術館・近現代美術国際キュラトリアル・インスティテュート修了（2014年）。日本及びアジアの現代美術を中心に企画・執筆・講演等多数。



名和晃平

彫刻家／SANDWICH Inc. 主宰／京都造形芸術大学教授。1975年生まれ。京都を拠点に活動。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009年、京都に創作のためのプラットフォーム「SANDWICH」を立ち上げる。独自の「PixCell」という概念を軸に、様々な素材とテクノロジーを駆使し、彫刻の新たな可能性を拓いている。近年は建築や舞台のプロジェクトにも取り組み、空間とアートを同時に生み出している。2011年、東京都現代美術館で個展「名和晃平・シンセシス」を開催。2018年7月よりパリで開催されている「ジャポニズム 2018：響きあう魂」の一環として、ルーブル美術館のピラミッド内に「Throne」を展示。 photo: Nobutada OMOTE | SANDWICH



建畠 哲

1947年京都府生まれ。早稲田大学文学部仏文学科卒業。「芸術新潮」編集者、国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授、国立国際美術館館長、京都市立芸術大学学長を経て、現在、多摩美術大学学長。全国美術館会議会長。埼玉県立近代美術館館長、京都芸術センター館長、草間彌生美術館館長を兼任。1990年、1993年にヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、2001年に横浜トリエンナーレ、2010年にあいちトリエンナーレ、2017年に東アジア文化都市京都のメイン事業「アジア回廊 現代美術展」の芸術監督。詩人としては、『余白のランナー』で歴新鋭賞、『零度の犬』で高見順賞、『死語のレッスン』で萩原朔太郎賞を受賞。



4. プレ・イベント「おも茶会」



地域に根ざしたもののづくりに強い関心を持ち、主に伝統工芸の分野で作り手に寄り添った企画を行う山崎伸吾氏を席主に迎え、現代美術家による待合での音楽ライブと、現代工芸の作家による茶道具を用いた本席でお楽しみいただきます。

日時：2019年2月7日（木）11:00 / 17:00

会場：京都芸術センター 大広間

（京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2）

席主：山崎伸吾（ディレクター、音楽家）

定員：35名

内容：抹茶

参加費：1,000円

※事前申込制（申込受付 12月20日～）・先着順

参加申込：お問い合わせ：京都芸術センター

連携：レザルティスミーティング 2019 京都

■アーティスト



山崎伸吾

ディレクター、音楽家。1978年倉敷市生まれ。京都を拠点に、音楽・美術・工芸・デザインなど様々な分野の人たちと協働しプロジェクトを行う。地域に根ざしたもののづくりに強い関心を持ち、主に伝統工芸の分野で作り手に寄り添った企画を行っている。現在の主なプロジェクトに「京都職人工房」「KOUGEI NOW」「KYOTO CRAFTS MAGAZINE」「Social Kitchen」がある。その他、音楽家として双子の未亡人、モノクロームサーカス、高嶺格などのダンス／パフォーマンス作品に参加。バンド GTSVL ではドラムを担当している。
<https://kougeimagazine.com/> <http://kougeinow.com/>



金氏徹平

1978年京都府生まれ、京都市在住。2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（ロンドン）に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。現在、同大学彫刻専攻講師。日常の事物を収集し、コラージュ的手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探索。個展「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016）、「四角い液体、メタリックなメモリー」（京都芸術センター、2015）、「Towering Something」（ユーレンス現代美術センター、2013）、「溶け出す都市、空白の森」（横浜美術、2009）など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」（2011）、KAAT キッズ・プログラム 2015 おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」（2015-2016）での舞台美術をはじめ、「tower(TEATER)」（2017-）で自身のドローイング、映像作品の舞台化に取り組む。
撮影：川島小鳥

基本情報

■各会場交通アクセス

旧府立総合資料館／京都府立京都学・歴史館

電車：京都市営地下鉄・烏丸線「北山」駅 1 番出口／南へ徒歩 4 分

バス：北山駅前／南へ徒歩 4 分（市バス 4・北 8）

前萩町／南へ徒歩 4 分（京都バス 45・46）

府立大学前／北へ徒歩 6 分（市バス 1・204・205・206・北 8、京都バス 32・34・35・45・46）

ロームシアター京都

電車：京都市営地下鉄・東西線「東山」駅 1 番出口／徒歩 10 分

京阪電鉄「神宮丸太町」駅 2 番出口／徒歩 13 分

バス：岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前／下車すぐ（市バス 36・46・京都岡崎ループ）

岡崎公園 美術館・平安神宮前／徒歩 5 分（市バス 5・100・110）

東山二条・岡崎公園口／徒歩 5 分（市バス 31・201・202・203・206）

京都芸術センター

電車：京都市営地下鉄・烏丸線「四条」駅、阪急京都線「烏丸」駅 22・24 番出口／徒歩 5 分

バス：四条烏丸／徒歩 5 分（市バス 3・5・201・206・207 等）

■参加申込：お問い合わせ

京都芸術センター

電話 075-213-1000 メール info@kac.or.jp

<http://www.kac.or.jp>

※シンポジウムの受付のみ京都いつでもコール

■クレジット

主催 京都文化力プロジェクト実行委員会（構成：京都府、京都市、京都商工会議所等）

協力 関西大学環境都市工学部建築学科大影佳史研究室、京都造形芸術大学 ULTRA FACTORY

企画・制作 京都芸術センター

本件広報に関するお問い合わせ

京都芸術センター 京都文化力プロジェクト公募展 広報

西谷（リレーリレー）

Tel: 090-2062-6963

e-mail: eriko@relayrelay.net

「京都文化力プロジェクト」は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等を契機として、日本の文化首都・京都を舞台に行われる文化と芸術の祭典です。オリンピックは、世界最大の平和の祭典であり、スポーツの祭典であるとともに、文化の祭典でもあります。2020 年に向けて、「創造する文化 京都から世界へ」をテーマに、京都から多彩な文化・芸術を世界に発信するとともに、国内外の人々と交流・協働し、新たな創造の潮流を起こしていきたいと考えています。